

DOYU

I W A T E

11
Nov.

2021
Vol.154
同友いわて

「豊かな自然から生まれる命のかけ橋となり、
『ふるさと』を創造したい」

勘六縁 代表

菊池 菊池

陽佑 裕美
氏 氏

よい会社をつくろう。よい経営者になろう。よい経営環境をつくろう。
岩手県中小企業家同友会 | <http://www.iwate.doyu.jp/> |

る生命力」を一人の決して諦めず取り組む姿から気づかせていただくことになりました。

生かすというは食べるという

勘六縁はどんなに厳しい環境でも田んぼで起きた一つひとつ目を背けず、一年、そしてまた一年と解決を重ねていきました。

春から秋にかけて毎週土曜日に盛岡市の材木町で開かれる「よ市」にも出店し、一年かけて大切に育てた亀の尾を一キロ200円で、直接お客様に販売も始めました。当初は市場よりも高価な設定に驚く姿もありました。

しかし「生きることは食べること。自然からいただいた命をつなぐ食の尊さと、食卓の幸せを伝えたい。私たちは豊かな自然と民話が息づく岩手県遠野市小友町にて昔ながらの自然栽培(無肥料・無農薬・天日干し)で命を育むお米を育てています。」この表示を掲げ始めたとき、値段のことを話すお客様はほとんどなくなりました。

こうした考え方の根底に、勘六縁の経営指針があります。一度目に挑戦した経営指針づくりでは、前述の通り大変な苦勞を

しましたが、2度目に成文化を試みてもう一度、掲げた10年ビジョンの実現に向けて毎年スローガンを社内でも検討し、年度目標を共有し、一歩一歩薄紙を重ねるかのような実践を続けてきました。

自然の循環に身をゆだねて

栽培方法にも考え方が貫かれています。

収穫したお米を種として使い毎年栽培することで、この土地に合った種へと変化してきました。また自然の循環を再現するため、勘六縁で収穫した稲わらと田んぼの土、発酵を促すための少量の玄米を使って育苗土を作り、自分たちの田んぼで全ての材料が揃う苗づくりを行ってきました。一番大変な草取り作業には除草剤を使わず、地域の皆さんの力を借り除草機と手作業で行ってました。

そして刈り取った稲の多くは、2〜3週間かけて天日でじっくり乾燥させています。時間・労力ともにかかりますが、自然が育む風味を追求しています。こうして小友の皆さん一人ひとりに声をかけ、みんなで手作りで取り組んできた秋の収穫祭に

は、首都圏からも沢山の子どもたちを連れて、お客様が参加するようにになりました。

世界へのややかな貢献に

苦しいなか、おれずに10年積み上げてこれたのも、すべて勘六縁の経営理念が根底にあるからです。

毎年一回私たちは、勘六縁の経営指針書を直接手渡ししていただきます。丁寧にファイリングされた、数ページに込められたその言葉一つひとつに、お米への愛情が溢れています。

その表紙をめくると3つの経営理念が描かれています。「私たちは、豊かな自然に感謝する心を育み、多様な命を支えあう『結』の社会をつくります。」

「私たちは、豊かな自然から生まれる命のかけ橋となり、『ふるさと』を創造します。」

「私たちは、豊かな自然から学ぶ姿勢を持ち、一つ一つと誠実に向き合い、共に成長します。」

菊池夫妻は話します。「私たちがめざすのは、自然を感じたいというお客さまの暮らしに寄り添うこと、地域が守り続けて



きた文化や風景、私たち日本人の食卓を支えてきたお米作りや田んぼへの思いを受け継ぐこと、自然栽培を通じて次世代のためによりよい食・農・環境を守ること。いずれは世界各国から研修生を招き、お米はもちろん、麦やとうもろこし、雑穀やじゃがいもなどの主食をつくる技術

を伝え、それを母国に広めてもらいたい、そんな希望も抱いています。私たちの取り組みはまだまだ小さなものですが、こうした思いの積み重ねが地域や社会、そして世界へのささやかな貢献になればと思います。」

「私たちが、豊かな自然から生まれる命のかけ橋となり、『ふるさと』を創造します。」

「私たちは、豊かな自然から学ぶ姿勢を持ち、一つ一つと誠実に向き合い、共に成長します。」

菊池夫妻は話します。「私たちがめざすのは、自然を感じたいというお客さまの暮らしに寄り添うこと、地域が守り続けて

大きな夢に向かって

最近勘六縁では、小友地域で営んできた10年配の水稲農家

から、水田を委託されることが多くなつて来ました。自然栽培を学びたいと、県外から学びに来るようになり、社員としての雇用も徐々に増えてきました。

私たちが取材に伺った時にも、休日にもかかわらず、稲刈りの様子を写真を撮りながら楽しそうに田んぼを眺めている社員がいました。以前は一人で行っていたお米の発送作業も、社員の手書きの文字が増えて来ました。

でもうまくいくことばかりではありません。自然栽培は自立した営みや生き方を育んでくれます。同時に、自然の怖さや雄大さ、人間のちっぽけさを教えてくれる学びでもあります。今年、期待していた収量は、予想よりも少なくなりました。鹿の食害も数百キロに及びます。常にこうした自然から問いかけに向き合い、また12年目の挑戦が始まります。

「大地に根を張り、自然とともに生きる私たちは、大きな夢に向かって歩み続けたい。」毎月コツコツこの10年、発行を重ねてきた小友銀座新聞は、現在発行94号。来春田植えを迎える頃には記念の100号を迎えます。

支部・地区・委員会ほつとライン

紫波・花巻支部

9月17日(金)オンラインで、紫波花巻支部9月例会が行われました。

報告は、(株)耕野 代表取締役 安藤誠二氏より「それでも俺は前を向く」～経営指針実践塾で見たコトとは～をテーマにご報告いただきました。

農業の3代目経営者として

(株)耕野の安藤氏は祖父、父から受け継いだ稲作を中心とした農業を27歳で法人化した。



した。自立した農業経営をめざして、地域の豊富な水資源を活かした「水耕栽培」で大きく施設投資をしてきました。

生産する野菜はベビリーフ、ミニリーフ、そしてマイクロボベリーリーフは首都圏の有名レストランなどでも利用され、料理を引き立てる個性で魅力ある野菜を提供していました。

そんな矢先のコロナ感染症拡大でこれまでの状況が大きく変化し、売り上げにかなりの打撃を受けます。その中で以前より地域の障がい福祉事業との連携があったこともあり、思い切つて福祉事業所を立ち上げました。しかし、先が見えない状況、苦しい時だからこそ打破したいと、第15期人を活かす経営・経営指針実践塾に参加することを決意します。

「農を社員と共に実現したい！」
経営指針実践塾では「何のための農業なのか」をじっくり考え、そこで出会った同期や実行委員との繋がりと関わりから、学びや感謝の気持ちを感ずりました。そこで見えた事は「これまでは、自分一人

人で考えてきた。この「農」を社員と共に取り組みたい」という思いでした。安藤氏は「この思いを実現していくのは、すぐには難しいが時間をかけてあきらめずに取り組んでいきたい」と率直に今の思いと現状をご報告いただきました。

県北支部

家業を企業経営にするために

9月22日(水)県北支部9月例会がオンラインで行われました。

「経営指針を受講して見えてきたもの」をテーマに、大鹿糠農園 代表 大鹿糠正行氏よりお話をさせていただきました。

大学卒業後、東京のIT企業に就職後、2005年に大鹿糠農園に就農し、2013年に父親の後を継ぎ4代目としてのバトンを受け継ぎました。その後は、規模の拡大や社員・パートの採用などあらゆる取り組みも行って来ました。しかし、就農して見えてきた問題がありました。それは



生産規模に合わない機械の投資や高齢化が進む中で

「新しい時代に対応できるような、専業で行っていた農業の「家業を企業経営に変える」ことの必要性を感じます。そして「農業と会社経営での視点や考え方の違いは何なのか。」違うのであれば同じ目線で経営について考えた」と想い第15期人を生かす経営・経営実践塾を受講します。

気仙支部

気仙支部幹事会・情報交換例会が10月11日、キャッセン大船渡で数ヶ月ぶりに対面で開催されました。当日は11名が参加、積もる話で盛り上がりました。最初に一人ずつこの間のそれぞれの取り組みをお話いただきましたが、暫く会わない間に大手術をされた方や、大震災以来、本社を陸前高田に戻された方、フランスへの輸出が増加し業態が大きく変わっている方など、コロナ禍の中で大きな変化を感じた時間となりました。

担い手不足。そして労働と収入のバランス。これらを解決するためには「同じやり方では難しい。新しい時代に対応できるような、専業で行っていた農業の「家業を企業経営に変える」ことの必要性を感じます。そして「農業と会社経営での視点や考え方の違いは何なのか。」違うのであれば同じ目線で経営について考えた」と想い第15期人を生かす経営・経営実践塾を受講します。

参加した皆さんが口々に話していたのは、企業での実践ばかり。どの業種でもなかなかこれまでの需要が伸びず苦戦するなか、これまで営業の対象としていた地域を拡大したり、対面販売を基本にしてきた業態を大きく変え、ネットで受付ネットで支払いまで

完結する販売方法も可能にしたりと、巣ごもり需要を逆手に取った挑戦で売り上げを必死に生み出してきた実践例などが報告されました。

「大震災時の何もない状況から考えたら、感染症拡大の影響は微々たるもの」と話しながら、新たな需要を開拓している姿に、震災を乗り越えてきた気仙支部のエネルギーの原点がここにあるのだと実感した幹事会・情報交換例会となりました。

最後は幹事の一人から出された社員教育の悩みに全員で関わり、具体的な解決法や「一人で悩まない」などのアドバイスが止めどなく出され、本音のかかわり合いに3時間の予定が足りなくなる程でした。



共同求人委員会

10月5日(火) 事務局3F 会議室とZoomで専門学校の採用ご担当者を迎えての就職意見交換・学習会を開催しました。今回は大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校盛岡校 就職課 伊藤規志氏よりご報告いただいた後、参加者と懇談しました。

大原学園は、「就職に強い」「公務員に強い」「資格に強い」を強みに、さまざまな分野で活躍する人材の育成に取り組み、毎年多くの卒業生を世に送り出しています。盛岡校は2015年に開校し県内外(北東北出身)の学生が入学し、現在(2022年卒)約60%の学生が就職内定を決めています。

専門知識を短期間で学ぶ

学生は「この仕事をしたい」と明確に決め、2年間という短期間で専門知識を深め資格取得のために学びます。このコロナ禍の中で、一時、採用に不透明な時期もありましたが、企業説明会もオンラインや、情報を収集しながら着々と就職の準備をしています。



また働く場所も、自分のやりたい仕事であれば、県内外問わずに就職を決めています。

目標が明確でない学生の特徴

しかし、就職することに曖昧な学生は、すぐ気持ちが変わり人に影響を受けやすく、志望していても途中で全く違う職種にいと簡単に変更してしまう学生もいます。伊藤氏は「当校は地元の企業の方々との接点が大変薄いというのが課題です。私たち教員も地元の企業の経営者とお会いする機会を多く持ち、学生に伝えていきたいと思えます。」とご報告いただきました。参加された方からは「今まで、専門学校の学生を採用する視点は全くなかったが今日の話から、今後視野に入れ

ていきたい。「20歳前後の若者の意識を知ることができた。我々ももっと知るべき」などの感想がありました。

県南支部

やっぱり会って話すのはいね

県南支部の10月対面例会が、10月18日に一関なのはなプラザで開催されました。

対面ではおよそ1年ぶりの開催となりましたが、前沢各地から12名が参加、それぞれの近況報告に盛り上がった例会となりました。

はじめに報告者として(有)共輪自動車 代表取締役 菊地寛之氏から、「自社・業界の最近の動向から考える今後の対応」をテーマに問題提起をいただき、質問や意見交換をしながら進行了ました。菊地氏からは「コロナ前、地球環境の変化などが大きく影響し自動車業界は先行きが不透明だと思っていた。しかし今回のことで社会のインフラとしての機能が期待され、むしろ我われの役割があると実感した」と、この間の心境の変化

をお話いただきました。また社員の自主性、主体性に任せたい経営が実現できたのも、経営方針に取り組んで積み上げてきた成果であることなども、実際の日常の事例から報告されました。

菊地氏の提起を受けての意見交換では「社員に任せるとはどこまでなのか」「どうすればより社員とのコミュニケーションがより良くなるか」など、オンラインではなかなか深められない話題にも一歩踏み込んだ討論が展開され、いつまでも話題が尽きず、あつという間に時間が過ぎた例会となりました。参加された皆さんの「やっぱり会って話すのはいいね」と、にこやかに話しながら帰る姿が印象的でした。



どんな環境でも、決して繋いだ手を離さない

～ 気仙支部の東日本大震災から10年の軌跡～

報告者 (株)八木澤商店 代表取締役 河野 通洋氏

9月9日(木)第49回青年経営者全国交流会From岐阜が開催されました。その第19分科会(岩手同友会)(株)八木澤商店 代表取締役 河野通洋氏のご報告をご紹介します。

9月9日(木)第49回青年経営者全国交流会From岐阜が開催されました。その第19分科会(岩手同友会)(株)八木澤商店 代表取締役 河野通洋氏のご報告をご紹介します。

9月9日(木)第49回青年経営者全国交流会From岐阜が開催されました。その第19分科会(岩手同友会)(株)八木澤商店 代表取締役 河野通洋氏のご報告をご紹介します。

9月9日(木)第49回青年経営者全国交流会From岐阜が開催されました。その第19分科会(岩手同友会)(株)八木澤商店 代表取締役 河野通洋氏のご報告をご紹介します。

この地域に何とんでも支部を!

2000年続く味噌醤油醸造業の6代目として

八木澤商店は214年続く味噌醤油の醸造元です。酒をつくる仕事から始まりその後、醤油、味噌づくりを営ん

八木澤商店は214年続く味噌醤油の醸造元です。酒をつくる仕事から始まりその後、醤油、味噌づくりを営ん

八木澤商店は214年続く味噌醤油の醸造元です。酒をつくる仕事から始まりその後、醤油、味噌づくりを営ん



八木澤商店は214年続く味噌醤油の醸造元です。酒をつくる仕事から始まりその後、醤油、味噌づくりを営ん

八木澤商店は214年続く味噌醤油の醸造元です。酒をつくる仕事から始まりその後、醤油、味噌づくりを営ん

八木澤商店は214年続く味噌醤油の醸造元です。酒をつくる仕事から始まりその後、醤油、味噌づくりを営ん

八木澤商店は214年続く味噌醤油の醸造元です。酒をつくる仕事から始まりその後、醤油、味噌づくりを営ん

八木澤商店は214年続く味噌醤油の醸造元です。酒をつくる仕事から始まりその後、醤油、味噌づくりを営ん

八木澤商店は214年続く味噌醤油の醸造元です。酒をつくる仕事から始まりその後、醤油、味噌づくりを営ん

八木澤商店は214年続く味噌醤油の醸造元です。酒をつくる仕事から始まりその後、醤油、味噌づくりを営ん

八木澤商店は214年続く味噌醤油の醸造元です。酒をつくる仕事から始まりその後、醤油、味噌づくりを営ん

八木澤商店は214年続く味噌醤油の醸造元です。酒をつくる仕事から始まりその後、醤油、味噌づくりを営ん

八木澤商店は214年続く味噌醤油の醸造元です。酒をつくる仕事から始まりその後、醤油、味噌づくりを営ん

八木澤商店は214年続く味噌醤油の醸造元です。酒をつくる仕事から始まりその後、醤油、味噌づくりを営ん

八木澤商店は214年続く味噌醤油の醸造元です。酒をつくる仕事から始まりその後、醤油、味噌づくりを営ん

八木澤商店は214年続く味噌醤油の醸造元です。酒をつくる仕事から始まりその後、醤油、味噌づくりを営ん

八木澤商店は214年続く味噌醤油の醸造元です。酒をつくる仕事から始まりその後、醤油、味噌づくりを営ん

八木澤商店は214年続く味噌醤油の醸造元です。酒をつくる仕事から始まりその後、醤油、味噌づくりを営ん

八木澤商店は214年続く味噌醤油の醸造元です。酒をつくる仕事から始まりその後、醤油、味噌づくりを営ん

考えて10年過ぎたら皆会社がダメになってしまふ。だから皆で知恵を出し合い、学びあう事が不可欠なのです。

若者が地域に残らないのは、我われ中小企業に魅力がない、さらにその経営者に魅力がない。心を動かす行動と行動がないからです。解決には例会で学び合うしかありません。教師や行政職員など様々な方に参加してもらい皆で例会をやりました。支部会員は創立時28名から3年で88名になりました。800人が参加する記念講演会も支部会員一丸となり成功を収めました。次の目標は100名会員支部。100名になったら1、000名のグループ討論をしたいと、本当に夢が膨らみました。地域の資源をどうやって生かし、その中でどう豊かで皆が幸せになるかが同友会の本質だと実感し、さらに飛躍しようという時に東日本大震災が起きました。

全国からの支援を受けての再出発

陸前高田市は、平地はすべ

津波に飲み込まれ、町の中心部はすべて壊滅しました。会社、事業所は86・4%が津波によって壊滅し、われわれ同友会の仲間も何人か犠牲になりました。あの、チラシをもって商店街をまわった文具店の後継者も地元消防団の団員として避難誘導していて犠牲になりました。わが社の社員も1名消防団員で犠牲になりました。次の日から、社員も半数以上家をなくしたので4日間かけて、家族の待つ場所に歩いて送り届けました。

5日目、高田自動車学校の田村氏に会い、無事を分かち合い涙でいっばいでした。田村氏から「これから全国の同友会の仲間から支援物資が届くから社員も一緒に協力してください」ということを言われます。その当時市役所も水没、職員の3分の1の人たちが犠牲になっていたので、我われ民間でやれることをやろう、と日本海側の新潟、山形、秋田同友会の仲間にお世話になり全国から届いた支援物資を地域に分けていきました。そのおかげで、6日目から避難所で

ずっと待つ状態から、救援物資を仕分けして避難所に届けるといふボランティア活動に変わりました。自分たちが役に立っているという実感を得られる事は大きいことでした。支援物資を避難所約200ヶ所に、そして孤立した集落にも全国からいただいた物資を届けました。

同時に自社工場の再生と事業の再建をやりながら、巨大



八木澤商店新工場

なテントを建て、地元商店に声をかけ「けせん朝市」を5月1日に立ち上げました。震災から1か月半、まだまだ救援物資が届いている中で商売をする。人間は与えられるだけでは苦しい。自分の意志で選び、自分で稼いだお金で買うという経済行為は自立の一步です。オープンすると行列ができ、地域の中で少しずつ商売の流れを再開させました。

仲間とのかかり合いの中で描く未来

私たちは震災の時に「なつかしい未来創造株式会社」という会社を立ち上げ、10年で50社、500名の雇用を生み出し新しい仕事を創るということを目指し始めました。結果、陸前高田市では137社の新会社ができました。そして発酵テーマパーク「COMCY（カモシー）」を昨年12月プレオープンしました。木挽きが作った木、製材業、大工、家具屋、鉄工業と全部地元企業と組み建設したものです。またそこには、イターン、Uターンの若手の女性スタッ

フが多く、日本で唯一完全オーガニックのチョココレートを作っているチョココレートファクトリー、一流のパン職人を招聘して、地元で行列ができるパン屋もあります。我われはそういう関わりを地域の中で小さくてもいい、仕事をつくるということを念頭にこれからも続けていきます。

この間、自分たちが誇れるとしたら、出生人口です。実は被災していない市町村でも出生人口は下がり続けていますが、陸前高田の人口は20%減少しましたが、出生人口だけは減っていません。これがこの10年やってきたことの集大成だと思えます。

まだ、自社の経営も軌道に乗っているわけではありません。でもここにはいい仲間がいます。コロナが落ち着いたから海外からも来ていただけるように。そして陸前高田でしか取れないものを、わが社がプラットホームになり、海外にも輸出していければという展望を持っています。それが地域の中で持続可能な社会を創るためでもあると思えます。

第37回
中同協役員研修会

中同協の役員研修会が10月7日（木）九州・沖縄ブロックを兼ねて開催されました。当初は福岡同友会の設営で開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染状況をふまえ、オンライン開催となりました。日頃各都道府県での活動が主体の同友会活動ですが、全国的視点に立ち、同友会運動を進める各同友会のリーダー養成を目的としたもので、同友会運動の歴史、理念、到達点、今後の課題と展望、リーダーの役割などが学べる充実した内容です。

本来は二日間かけて行う内容を、今回はオンラインで一日での開催となりました。

自社に置き換えて実践し続ける

第1講では、同友会の歴史と理念とその体現者をめざしてをテーマに中同協会長（株）ヒロハマ会長）広浜泰久氏にお話戴きました。一斗缶のキャップのシェアが9割以上という同社ですが、「一人一人の持つすべての能力を、共にベストの形で花開かせよう」との理念で社員

の能力を花開かせる経営を実践してきました。こうした経営が実現できたのは「人を生かす経営」に学び、学んだことを誠実に一つ一つ実践し体現してきたこそ。「すべての人がその持っている力を発揮できる会社づくりができるのは同友会」とのぶれない提起に大きな刺激を受けました。

また第3講の中同協副会長（日東イシダ(株) 代表取締役会長）鍋島孝敏氏の報告では、ご自身の宮城同友会の実践例から、可能な限りのすべての同友会活動に出続けた経験から、「人はその気になつて学び、自社に置き換えて実践し続けなければ変わらない」とはつと気づかされる内容もありました。3講通じて刺激と気づきの連続だった役員研修会となりました。

今回は初めて岩手同友会の県理事として参加した佐々木江美氏の感想をご紹介します。



SS 建築デザイン室(有) 代表取締役
佐々木 江美氏

今回中同協第37回役員研修会

に初めて参加しました。

第1講の同友会の歴史と理念は、中同協会長の広浜氏から同友会の三つの目的「良い会社」「良い経営者」「良い経営環境」と「自主」「民主」「連帯」をマトリックスにして、同友会理念・同友会運動（実践）の到達点を丁寧に解説していただきました。

第2講では、同友会役員の役割を、中同協幹事長の中山氏より「企業づくり」「地域づくり」「同友会づくり」の観点からお話しいただき、第3講では、同友会は「学んで実践してこそ」と、中同協副会長の鍋島氏よりご自身の実践を報告していただきました。

今回二番の気づきは、仲間を増やす事についてです。グループ討論で他の同友会の役員の方から仲間を増やすために、「まずその方の悩みや何に課題を抱えているかじっくり聞き相手に寄り添うことが入会の一歩につながる」ということを学び、ぜひ取り組んでいきたいと思えます。今回の研修会は役員として参加させていただいた事に感謝し、歩みは遅いですが、学びと実践を休まずに進めて参りたいと思えました。

新
会
員
紹
介

支部地区	盛岡支部
氏名	村上 勝俊
企業名	(株)イノベーションラボ岩手
役職名	代表取締役
住所	〒020-0066 盛岡市上田4-3-5
TEL	019-656-1887
FAX	019-656-1887
事業概要	人材育成、産学官連携等に関するコンサルティング



支部地区	盛岡支部
氏名	野田 尚紀
企業名	(株)フロムいわて
役職名	代表取締役
住所	〒020-0883 盛岡市志家町13-29
TEL	019-601-5846
FAX	019-601-5847
事業概要	テレビ番組やニュースの企画、取材、撮影、編集をはじめとする動画コンテンツの制作と広告展開の提案



支部地区	紫波花巻支部
氏名	高橋 剛
企業名	紫波環境(株)
役職名	課長
住所	〒028-3317 紫波郡紫波町南日詰字小路口70-1
TEL	019-672-2656
FAX	019-601-2686
事業概要	し尿・浄化槽汚泥収集運搬、浄化槽保守点検、BDF 製造販売、環境関係事業



～ 組織委員会からのお知らせ～
☆ご紹介ください!!

あなたのお知り合いの経営者で「この方にぜひ同友会の入会をオススメしたい」「この方に例会参加のお誘いをしたい」などという方がいらっしゃいましたら同友会事務局までお気軽にご連絡ください。お待ちしております!

岩手同友会事務局 TEL 019-626-4477
FAX 019-626-1644
Mail info@iwate.doyu.jp

ドイツからの風



池田憲昭氏

プロフィール
1972年長崎県生まれ
岩手大学人文社会科学部(ドイツ文化専攻)卒業、フライブルク大学森林環境学ディプロム課程(修士相当)卒業
フライブルク地域を拠点に、ドイツ環境視察セミナーのオーガナイザー、異文化マネージメントのトレーナー、企業サポーター、日独プロジェクトのコーディネーター、専門通訳、ジャーナリストとして活躍されています。2011年9月Arch Joint Vision社を設立 現代表。

我が家のノムラモミジ

シュヴァルトツヴァルトも秋に色づき始めました。我が家の前庭の、南東向きの一帯に当たりのいい場所に生えている樹齢50年あまりのノムラモミジの葉っぱも、きれいな朱色に変わり始めました。これから、葉っぱが散るまでの2週間、美のクライマックスです。



春先は、紫色の葉っぱを開き、夏場は緑がかった赤になり、秋に美しい朱色になるといふ、一年中、葉っぱが赤系の色を保つノムラモミジは、江戸時代に天然のイロハモミジから改良された品種です。イロハモミジは、日当たりの弱い日陰に適応した樹種で、それが日当たりがいい庭とかに植えられると、強い紫外線から自らを守るため、春でも夏でも赤の色素のアントシアニンが強くなり、光合成をするクロロフィルの緑を覆ってしまったのでしよう。モミジのこの賢い生物学的対応は、一年中赤い葉っぱを見たい人間にとっては、おそらく都合でした。だから品種改良がされたのでしよう。

その日本の庭の代表品種が、100年くらい前にヨーロッパに入って、私たち家族が5年前から住んでいる築50年の家に生えています。近所の家、数件にもイロハモミジが生えています。当時、外国のいろんな樹種を植えるのが流行ったのでしよう。現在は、地域産種を出来る限り植えるように推奨されています。私たちは、この日本の品種のモミジも気に入って、ここに住み始めました。最初は、賃貸人でしたが、途中で大家が、売りたいと言ってきたので、コロナの前の年に思い切って購入して、持ち家にしました。月々の出費は、賃貸の頃も、現在も、ほとんど変わりませんが、気持ちは違います。古い家なので、一部、窓を換えたり、ガスのボイラーが真冬に壊れて、職人さんに無理して素早く入れ替えてもらったり、いろいろ大変ですが、年々、愛着が増しています。イロハモミジにも。

週間後には、歩道を毎日埋めつくします。これを掃除するのは、ドイツでは、基本的には家の住人の責任。掃除は大変ですが、秋の終わりや冬の始まりを感じる時です。冬は、雪が積もると、歩道の雪掻きの義務もあります。朝6時頃、真っ暗な中で起きてやります。近所の人たちも、ゴソゴソ出てきてやり始めます。人間は、進化の中で脳を発達させて、自分の住む環境を、自分の都合やイメージに合わせて、大きく改変し、造成する能力と技術を持ちました。室内は、一年中、一定の同じ快適な環境で過ごすことも可能になりました。暑い夏が嫌で、寒い冬も嫌なら、夏場は北欧で、冬場は南欧で過ごすことも、お金と時間次第で可能です。一方で、環境に合わせて生きなければならぬ、移動ができない植物は、自然環境に合わせて、自分を変えて生きなければなりません。自然の変化に敏感である必要がなくなつた人間に、地球で生きるための大切な基本を気づかせてくれます。

秋に緑の葉っぱが赤くなるのは何故でしょうか？ 生物学的な答えはこうです。葉っぱの中には、黄色に見えるカロチノイド、赤色に見えるアントシアニン、そして緑色に見えるクロロフィルという分子があります。光合成するのはクロロフィルで、マグネシウムと窒素を中核とする有機物質からなりたつていて、たくさん光合成をする春から初秋にかけて、通常このクロロフィルの割合が多く、黄色カロチノイドと赤色のアントシアニンを覆ってしまうので、緑に見えます。晩秋で寒くなり、土も凍りはじめ、光合成に必要な十分な量の水を土壌からの吸い上げるのが困難になり始めると、木は葉っぱを落とし、水不足の冬環境に適応しますが、その前に葉っぱのクロロフィル分子を解体し、その主要物質であるマグネシウムと窒素を、枝や幹や根に、次の春が来るまで貯蓄しておくのです。この落葉前の過程で葉っぱのクロロフィルが少なくなると、隠れていたカロチノイド(黄色)やアントシアニン(赤色)が表にでてきて、「紅葉」になるのです。植物は、次の年への備えもしっかりやって冬を越します。コロナ危機で人間も、少し減速し、落ち着いて物事を考え、未来に対する心構え、備えをすることができたでしょうか？ その成果を見せるのはこれからです。

素心知困

ある会社の女性社員から同友会に電話が来ました。「うちの5年生の子が昨日、小学校へ社長さんたちが来てSDGsを教えてくれた。凄く楽しかった。」と。「来てくれたんですね。」との話でした。子どもたちは誰が来たとも言っていないのに。▼その後そのお子さんはお母さんと、世界の飢餓のことや、気候変動の話を知って話そうす。「共通語で話せたいですよ！」と嬉しそうに電話の奥で響きました。▼一緒に行った社長さんは、「うちのお父さんの名前〇〇って言うんです。知ってますか？」と聞かれていました。その社長の会社で勤める若い社員の息子さんでした。▼地域に根ざす中小企業にとつて、普段すぐ隣にいながら、子どもたちと直接関わり話す場面は限られています。50歳以上も離れた世代と何気なく「共通語」で語りあった時間。きっと子どもたちの記憶にずっと残っていくはずです。▼見られていないと思ってるのは自分たちだけで、地域の隅々から丸見えかもしれません。

■本紙掲載の例会や諸事業には、所属支部に関係なくどこにでも参加できます。ご連絡下さい。■同友会ホームページを
ご利用下さい。www.iwate.doyu.jp ■例会や役員会などのカレンダーと事業案内を随時更新しています。■本紙掲載
事業への出欠返信は、同封のファックス返信用紙またはedyuをご利用下さい。

**オリジナルラベル
ワインを作成します**

周年記念、御中元、お歳暮、ノベルティ等

SHIWA
自園自醸ワイン紫波 社名ロゴ 包装、 12本以上
岩手県産ぶどう100% 写真OK のし無料 作成料無料

お申し込み・お問い合わせ
Tel. 019-676-5301

自園自醸ワイン紫波 (株)紫波フルーツパーク
醸造元
〒028-3535 岩手県紫波郡紫波町遠山字松原1-11



物を大切にし環境にやさしくしたい 使わない人から使いたい人へ
総合リユースショップ Dokidoki 2nd STREET

(株)トータル・リユース

代表取締役社長 **伊瀬 幸郎**
ise yukiro

本社 〒026-0041 岩手県釜石市上中島町2-2-33
TEL:0193-21-2126 FAX:0193-21-2127
携帯 090-8780-3296
E-mail: trise@arion.ocn.ne.jp

めだか

有限会社いわてにつかコミュニティ企画
(事業内容) デイサービス/生活介護/訪問介護/住宅型有料老人ホーム
児童デイサービス/相談支援事業所/訪問看護/就労継続支援B型



包装設計のプロフェッショナル「東北ウエノ」は、
「適材適包」でお客様をサポート致します。

「PACKAG ENGINEERING」

詳しくはホームページで <https://www.touhokuueno.co.jp/>

株式会社東北ウエノ
〒021-0893 本社：一関市地主町3-35 Ⅸ0191-21-4531
テコニカルセンター一関市地主町7-15 Ⅸ0191-32-5020

輸送包装便覧.com <https://www.transport-package.com/>

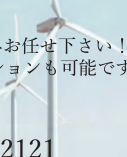
節電は経費削減につながります!

オフィスの照明を見直し、経費削減を実現しませんか?
お客様のニーズに合わせたLEDソリューションをご提案します。

長寿命 ● 消費電力カット ● CO2削減 ● 発熱が少ない

現場調査から取付工事まで、すべて平金商店へお任せ下さい!
LEDに入れ替えた場合のコストシミュレーションも可能です。
ぜひお気軽にご相談ください。

株式会社 **平金商店** TEL:019-624-2121



人と自然にやさしい
環境を創り
地域型企業として
貢献します。

岩手日化サービス株式会社
〒020-0402 盛岡市黒川 22-56
TEL 019-696-5611 FAX 696-5614



ゆたかな幸せのために、より良い環境創りで
真の循環型社会を目指します。

浄化槽保守点検 ● 植物 ● BDFの製造・販売 ● エネルギー削減 ● CO2 ● 浄化槽汚泥収集運搬

紫波環境株式会社
岩手県紫波郡紫波町南日詰字小路口70-1
TEL:019-672-2656 FAX:019-601-2686
<http://shiwakankyo.com/>



Southern Iwate
DSG サザン岩手ドライビングスクールグループ
Southern Iwate Driving School Group

陸前高田ドライビングスクール 三陸技能講習センター
RIKUZENTAKATA DRIVING SCHOOL Sanriku skill training center

平泉ドライビングスクール 遠野ドライビングスクール
HIRAIZUMI DRIVING SCHOOL TOHNO DRIVING SCHOOL

携帯サイトはこちら
<http://www.si-dsg.com/>
/mobile



DOYU
I W A T E
同友いわて
2021年11月15日
Vol.154

発行/岩手県中小企業家同友会
広報委員会

2021年11月1日発行

〒0200878 岩手県盛岡市着町4-15 カガヤ着町ビル3F
TEL 019-626-4477 FAX 019-626-1644
Mail: info@iwate.doyu.jp